

京都・長岡京跡(2)



(京都西南部)
(京都西南部)

土器溜りや轍を検出した。
長岡京期の掘立柱建物跡三
棟、溝等を検出している。
今回の調査では、三条大路
北側溝を確認するとともに、

陽高校の敷地内では、以前
の調査で、三条大路南北両
側溝や三条第二小路南側溝、
長岡京期の掘立柱建物跡三
棟、溝等を検出している。
今回の調査では、三条大路
北側溝を確認するとともに、
土器溜りや轍を検出した。

(1) □□□〔延カ〕〔遣カ〕
板壱村□□□

(213) × 25 × 15 061

火鑽板として使用されており、下方左端部にその際の小孔を三カ所残す。小孔の一つは、墨痕を一部削っている。送り状として使つたものと考えられるが、厚さ等からみて、本来木簡用の板ではなく、何らかの材を木簡として利用し、その後、火鑽板として利用したものである。

- 1 所在地 京都府向日市上植野町西大田
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)一〇月~一月
- 3 発掘機関 勅京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 4 調査担当者 山口 博
- 5 遺跡の種類 都域跡
- 6 遺跡の年代 長岡京期(八世紀末)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、長岡京の左京三条二坊五町及び三条大路の推定地に当たり、京都府立向陽高校のトレーニングルーム建設に伴い、調査を実施したものである。この向

- 8 木簡の釈文・内容

遺物は、長岡京期の土師器・須恵器・瓦類の他、円面硯・転用硯・墨書き土器・鉈尾等が出土している。墨書き土器は一四点出土し、「廣」、「女」、「福」、「□田月人」、「家□」等と記されている。

木簡は、多量の土師器・須恵器・瓦とともに、三条大路北側溝から出土した。長岡京廃都時に、他の遺物とともに投棄されたものと考えられる。なおこの側溝は、轍を埋めて砂礫層を削っている。

